左京区保護司会会長賞・京都市教育長賞

# キレイゴト

京都市立岩倉南小学校六年　依光　由里華

「良いことをすれば自分も相手もうれしくなる。」大人たちはみんなそういう。ただのきれいごとだ。そう思っていた。いつもの金曜日。私は習い事にいく途中で、電車に乗っていた。すると、マタニティマークをかばんにつけた女の人が乗ってきた。そして私と同い年か、年下くらいの背をした女の子が「どうぞ、お座りください。」とすぐに言ったのだ。女の人は「ありがとう。」と満面の笑みで言った。ただ、それだけだ。一しゅんだった。あの女の子の一言で、女の人はとてもうれしそうに「ありがとう。」と言ったのだ。その一ヶ月後、いつものように電車に乗っていたら、ご年配の方がやってきた。私はあの女の子を思いだし「どうぞ、お座りください。」と言ってみた。視線が集まる。ドキドキする。断られたらどうしよう。変な人と思うだろうか。そう思っていたら、ご年配の方は「ありがとう。とってもうれしいわ。」とにこにこしながら言ったのだ。私はいままでに感じたことがないほどうれしくなった。初めて会った人に感謝された、と。あのきれいごとは本当だったのだ。この話も「アニメの話じゃないか。」と思うかもしれない。だが私は本当にそう思ったのだ。

社会を明るくするために、私は希望が必要だと考える。小さな希望で小さな勇気、小さな勇気で大きな思いやり。たとえそれが不可能に思える希望でも信じてみることで勇気は生まれる。また、希望があれば犯罪や非行に手を染めるようなことは起こらないはずだ。だが私たちは希望を忘れている。大きな希望は感じられるだろうが、小さな希望は感じられない。身近すぎるのだ。生きることができる希望。私はこの希望を忘れたくない。そして、他の人たちにも、忘れてほしくない。

社会を明るくするために、私は私自身を大切にしたい。私自身を大切にすることで気持ちが明るくなる。明るくなることでポジティブに物事を考えられるはずだ。また、ありのままの自分でいることができる。ありのままの自分でいることで楽しいことを楽しいと、悲しいことは悲しいと、自分の気持ちを受け入れやすくなる。

私はきれいごとがきらいだ。でも今は好きだ。希望がもてるから。思いやりであるから。夢に向かって走り続けることができるから。「良いことをすれば自分も相手もうれしくなる。」私が大好きな「キレイゴト」だ。